

# 学道一如

発行 小樽双葉高校  
生徒会通信  
2023年4月20日  
第3号

## 米国ホームステイ 語学研修報告 (1)

### 言葉を超えて交流できた 授業の姿勢180度違った 木村伊咲さん (3-2)



暖かく家族のように接してくれたホストファミリー

本校に入学したのはこの留学制度を利用しようと思っただけだった。貧困や平和など世界情勢や社会問題に関心があり、英語のコミュニケーション力もつけたいと考えていた。

#### 高校生との交流財産に

参加して特に心に残っているのは現地の高校生との交流だ。ホストスチューデントやほかの生徒のホストスチューデントとも仲良くなり、今でも連絡を取り合っている。ボーリングに行ったり、パーティーをしたり、言葉があまり通じなくても身振りやケータイの画像を使ってコミュニケーションをとり、一緒に盛り上がった。多くの友人たちが日本に来たいと願っている。話す力を磨いて留学した方がよいのはもちろんだが、笑顔や絶やさず、挑戦する気持ちや忘れず、わからないことは聞く気持ちの強さを持つてるとよいと思う。



ホストスチューデントと一緒にスキーに行った。右写真は木村伊咲さんのホストスチューデントのアリサと。



本校の海外姉妹校派遣プログラムにより、2・3年生9名と引率の先生2名が米国バーモント州のサウスバーリントン高校を訪れ、10日間の語学研修を行った。それぞれ、ホームステイをしながら、ニューヨーク市を見学したり、高校の授業に参加するなどして、異文化体験や生の英語に触れる機会を得た。参加者に学んだことを聞いた。

#### アットホームな ホストファミリー

ホストファミリーは暖かく家族のように接してくれ、夕飯のときに雑談をするのが楽しかった。



現地の小学校を訪問して交流した。一緒に遊んだりした。

#### 世界を視野に

将来は大学で世界情勢を学び、貧困をなくし、平和づくりを学びたいと考えている木村さん。奉仕活動部の部長として、フィリピン、ミンダナオ島の子ども図書館への物資支援にも先頭になって取り組んでいる。

休日にチャータストリートを案内してもらい買い物を楽しんだ。

た。日本の文化の紹介に寿司とうどんを作り、食べてもらったが好評だった。

#### 自分の意見を持つ米国の高校生

授業のスタンスが180度違うと感じた。たとえば、スペイン語やフランス語の授業では、聞き話すことに力を入れていた。日本は書くことに重点を置いていた。

他の授業や様々な場面で、米国の生徒は自分の意見を持ち、発言する、相手の意見をよく聞く、軸をしっかり持っていると感じた。また、思いやりがあり、困っている人がいたら助けることができたいので見習いたいと思った。